
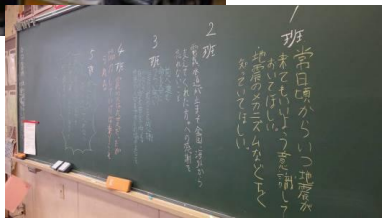


「仙台版防災教育副読本を活用した指導事例」

<p>学校名 [仙台市立富沢中学校] [中] 学校 [29] 年版</p>	<p>氏名 [遠藤 寿江] 単元名 [一步一步 力強く 語り部として] p.8~9 教科・領域名 [道徳] [時間 50分]</p>
<p>主な学習活動 (実際に行った活動)</p>	<p>指導の実際</p>
<p>【ねらい】 防災副読本の意義を理解し、震災を経験した私たちだからこそ、語り継ぎ未来を切り開くべき自己の役割を自覚し、今後の復興に自分なりにできることに努める。 内容項目 4-(2) 社会連携</p> <p>1 p.4~7 の資料を見ながら、震災当時を振り返る。 ○3.11 の時、どこで何をしていましたか？ ○震災後、どのような生活をしていましたか？</p> <p>2. p.6 の⑬の写真「故郷復興プロジェクト」について知る。 ○故郷復興プロジェクトを知っていますか？</p> <p>3. 復興ソング「仲間とともに」について知る。 ○復興プロジェクトの一環として、仙台の小中学校でつくられた「復興ソング」について知っていますか？ ・ワークシートを配付し、作詞者のことばを読み、p.8~9 の歌詞と写真を見ながら、復興ソングのCDを聴く。</p> <p>4. この歌と共に、自分たちが「語り部」として何を後世へ伝えていくべきかを考える。 ○「語り部」として伝え続けなければいけないことはどんなことでしょうか。 ・生活班になって、自分の考えを発表する。 ・班長は、自分の班の考えをまとめ、黒板に板書する。 ・学級全体で、みんなの考えを共有する。</p> <p>5. 歌詞の一部にある「私には何ができるだろう」について考える。 ○これから「私たちには何ができる」のでしょうか。 ・何人かに指名をして、発表させる。</p> <p>6. 楽譜を配付し、実際に歌う。 ・これから、復興プロジェクトなどで心を込めて歌えるように練習する。</p>	<p>【準備物】 副読本、「仲間とともに」CD、楽譜 CDラジカセ、ワークシート</p> <p>●「故郷復興プロジェクト」の説明 ・2011年5月にスタート。仙台市の各小中学校の代表生徒が4つの地区毎に集まり、復興へ向けて、小中学生がどんなことができるか、意見を出しあい、毎年、各校でゴミ拾い活動など、地域連携活動を行ってきた。未曾有の大震災で経験したことを、風化させないために、行われている活動である。</p> <p>○p.1 の楽譜の下に掲載されている資料を読み、どのような経緯で復興ソングが作成されたかを確認する。 ○ワークシートの作詞をした生徒の資料を読ませる。また、どのような思いで作詞をしたかを考えながら、復興ソングを聴かせる。 別紙ワークシート 別紙</p>   <p>生徒の感想 ・震災を経験していない人達に、協力しあい、助け合うことの大切さを伝えていきたい。 ・この震災で助けてくれた多くの人たちに、感謝の気持ちを忘れないでいたい。 ・残された命を、大切にしながら、今を精一杯生きていきたいと思った。</p>

「仙台版防災教育副読本を活用した指導事例」

第1章	東日本大震災の記憶	1年 組 番
3	一步一步 力強く 語り部として	氏名

「仲間とともに」作詞者のことば

仙台市立南小泉中学校 藪内 海美さん

東日本大震災が起きた3月11日、当時私は小学6年生でした。新しい校舎建設のため、プレハブ校舎での授業の最中でした。天井から物が落ちたり、壁が倒れたり、とても恐ろしい一瞬でした。誰一人ケガもなく、家族のもとへ帰ることができましたが、あの恐怖は忘れられません。

それから2年が経とうとする頃、この復興ソングの話があり、「中学生の私には何ができるだろう」と改めて考える機会となりました。当時、たくさんの人が恐怖と不安と悲しみの中で、お互いを思い、助け合い、歩き始めました。勇気と元気をくれた方々への恩返しとし、命あることに感謝し、思いやりの気持ちを忘れず、復興を願う仲間とともに前へ進んでいきたいです。昨日よりは今日、今日よりは明日、一步一步復興は進んでいるのです。そんな願いで歌詞をつづった復興ソング「仲間とともに」が一人でも多くの人に響いてほしいと思います。

かの香織さん、遊佐未森さんには、このような素敵な曲をつくっていただき、本当に感謝しています。この詞が歌となり、生きたものとなってとても嬉しく思います。仙台市や宮城県が一つになって、復興へ向けて進む力になってくれればと思います。



「希望の道」を披露していただいた金剛沢小学校のみなさん



「仲間とともに」を披露していただいた第一中学校のみなさん



発表会には作曲したかのさん、遊佐さんも参加していただきました

1. 復興ソングと共に、自分たちが「語り部」として後世へ伝え続けなければならないことは、どのようなことでしょうか。

2. これから「私たちには何ができる」のでしょうか。

3. 今日の授業を振り返って